



みほ●千葉市生まれ。3歳よりヴァイオリンを習う。東京農業大学中退。2001年より馬頭琴を始める。中国内モンゴル出身の国家1級演奏家チ・ブルグッド氏と結婚。出産後、本格的に馬頭琴を習得。09年、アルバム『風がくれた物語』をリリース。10年、映画『13人の刺客』の音楽に馬頭琴で参加。高音の美しさを表現する演奏に定評がある。TOKYO馬頭琴アンサンブルコンサートマスター。中国馬頭琴学会会員。八街市在住。2児の母でもある。

美炎

馬頭琴奏者

モンゴルの伝統楽器から「自分の音」を紡ぎ出す

ヴァイオリン、馬、探検：好きなものができると猪突猛進タイプ。ユニークな青春時代を過ごしました。

3歳のとき、ヴァイオリンを習い始めました。母が知人の発表会に連れていったら、興奮して舞台上で習わせることにしたと聞きました。

ちょっと変わった子どもだったみたいです。空想が好きで、物語が好き。それから、なぜか馬に興味があった。身近に馬なんていない環境だったのに、幼稚園の頃、近所のお稲荷さんの前を通るたびに「私に馬をください」ってお祈りしていた記憶があります。中学生くらいから探検が好きになりました。山形の山奥にある高校に進学し、毎日、山に登ったり川に潜ったり……。木に登って熊

にまちがえられたこともありまし

た。冬は雪が3mくらい積もるんですけど、本当に楽しかった！山形から千葉の実家に帰省するときも徒歩で帰ったりして、とにかく冒険が大好きでした。大学では探検部に入り、夏休みに友人と2人で3か月かけてカナダのユーコ

ン川をゴムボートで下りました。

憧れの地・モンゴルで

出会った馬頭琴。

一目見た瞬間に

「これは私の楽器だ！」と確信しました。

アラスカと並んで絶対に行こう

と決めていたのがモン

ゴル、と言いなながら、

高校くらいまでモンゴ

ルという国が実在して

いるって知らなかった

んです。チンギス・ハ

ンの時代の国かと思っ

ていた(笑)。大学1年

生の冬に叔父が「内モ

ンゴルに行くけど一緒

に行く？」と誘ってく

れたので、二つ返事で

同行しました。叔父は

日本に留学していた馬

頭琴奏者と仲良くして

いて、彼の里帰りに付

いていくと言っんで

す。その彼が後に夫と

なるブルグットなんで

すけど、当時は結婚す

るつもりはさらさらな

かった(笑)。

現地で初めて馬頭琴を見ました。

音もさることながら、馬が付いて

いる形に感動、「私はこれをやるべ

きだ。練習したらうまくなるに違

いない！」と根拠もなく確信しま

した。さっそく買って、日本に持

って帰りました。でもそのときは、

それっきり。

本格的に習ったのはブルグット

と結婚し、長男も生まれた後です。

ブルグットの故郷で、ひと夏かけ

て馬頭琴の練習をする合宿があっ

て、義母に子どもを見てもらいな

がら、参加したんです。練習しす

ぎて指から血が出て、弦が血まみ

れになっても気がつかないくらい

夢中になりました。

「上手に弾こう」という

呪縛から解放されたとき

自分の音楽が生まれました。

八街の竹林に吹く風を受けて

今日も馬頭琴を奏でます。

その後も日本でブルグットと生

活しながら、馬頭琴の練習は続け

ました。彼のコンサートで何曲か

合奏したり、人前で演奏する機会

も徐々に増えました。でもプロに

なる気はありませんでした。ヴァ

イオリンをやっていた感覚では、

大人になって始めた楽器でプロ奏者になるなんてありえないと自分で決めつけていたんですね。

30歳になったとき、さんざん迷った末に馬頭琴を仕事にしようと決めました。でもそれからが大変で……。プロならもっと上手に弾かなくちゃ、みたいな意識が出てきて全然楽しく弾けなくなってしまう。夫に負けたくないという気持ちもあったし(笑)。でもあるとき、ふっと気がついたんです。夫は男でモンゴル人だけど、私は女で日本人。だから自分は自分の馬頭琴を目指せばいいんだと。そう思ったら、また楽しめるようになり、どんどんオリジナル曲が湧いてきました。モンゴル民謡も弾きますが、今はほとんどオリジナル曲を演奏しています。

今年の2月にアメリカのセドナに一人旅をして、そのときに聞いたネイティブアメリカンの伝説を曲にしました。7曲つくって、それを物語で紡いでいくような構成でコンサートをやりました。昔から物語が好きだった感覚も蘇ってきて、とても楽しかった。今後も旅と物語を絡めたような曲づくりをしていきたいと思っています。



馬頭琴の弦は2本。1本は細い細い100本ほどの糸で束ねられている。撮影：井崎正吉